

# 令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 東京都立町田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成  
副校長、経営企画室長、総務・広報部主任（主任教諭）＝事務局長、事務担当 計4名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、総務・広報部主任、調査研究・研修部主任、計8名
- (4) 協議委員の構成  
保護者代表（PTA会長）、同窓会代表（同窓会長）、地域住民代表（町田市青少年健全育成町田中央地区委員会副委員長）、近隣中学校長（町田市立第一中学校長）、有識者（大正大学、拓殖大学、東京都立大学）3名、関係機関等（町田市教育委員）1名 計8名

## 2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催
  - 第1回 令和7年6月27日(金) 内部委員8名、協議委員8名  
協議委員の委嘱、委員紹介、学校経営報告、学校経営計画、学校評価アンケート結果、各分掌の現状と課題
  - 第2回 令和7年11月14日(金) 内部委員8名、協議委員8名  
学校評価アンケートの質問項目、第2回授業アンケートの予定、各分掌の現状と課題
  - 第3回 令和8年2月10日(火) 内部委員8名、協議委員8名  
学校評価アンケート実施報告、第2回授業アンケート結果、内部委員からの組織目標に対する成果と課題の報告、協議委員アンケート
- (2) 評価委員会の開催
  - 第1回 令和7年11月14日(金)  
学校評価アンケートの設問内容
  - 第2回 令和7年2月10日(火)  
学校評価アンケート実施報告

## 3 学校評価アンケート

- (1) 学校評価の観点  
学校経営計画の達成状況を学校運営、学習指導、特別活動、生活指導、進路指導、保健指導等
- (2) アンケートの対象及び実施時期

対象者	対象者数	回答数	回答率	実施時期
在校生	941名 (①319, ②307, ③315)	840名 (①302, ②284, ③247)	89.3% [83.7%]	12月
保護者	941名	644名	68.4% [69.9%]	1月
教員	50名	38名	76.0% [74.0%]	12月
中学校・地域		103名 [42名]		12月

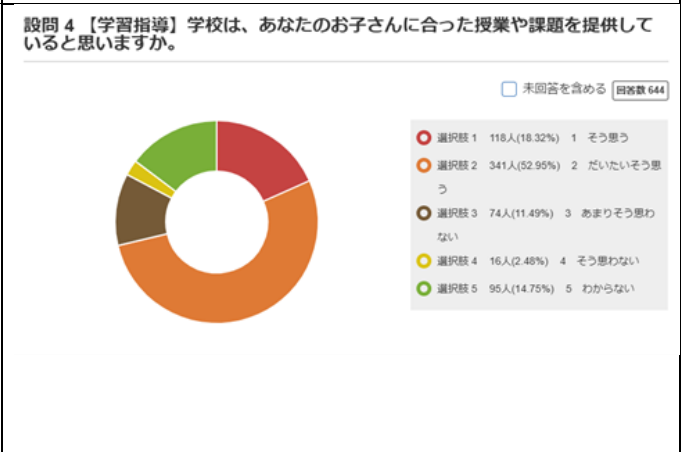
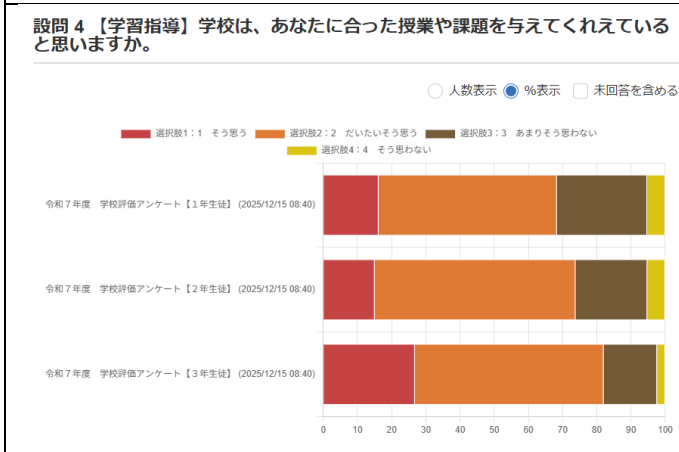
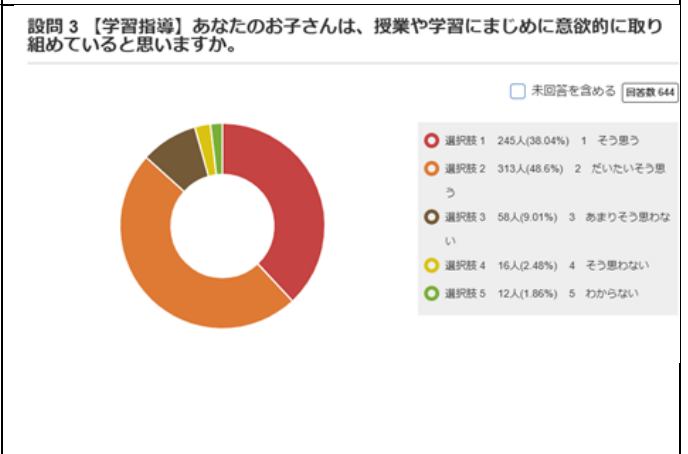
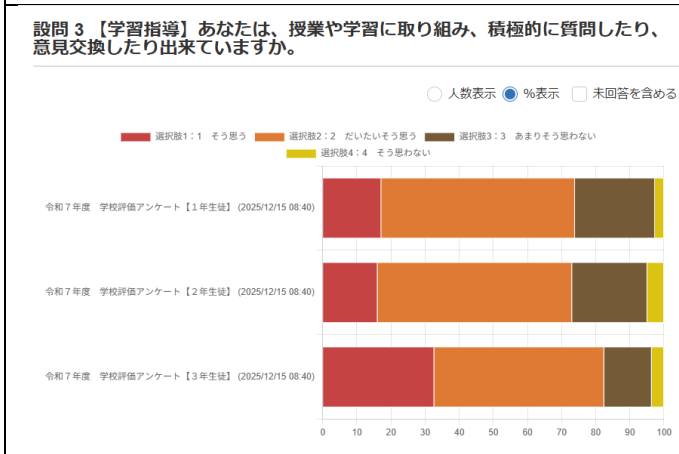
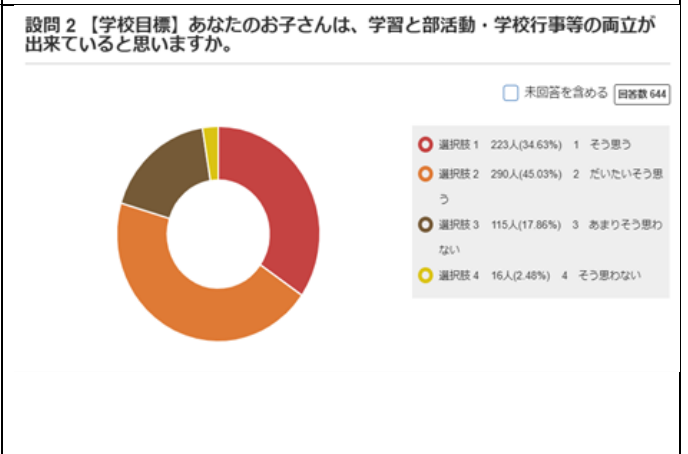
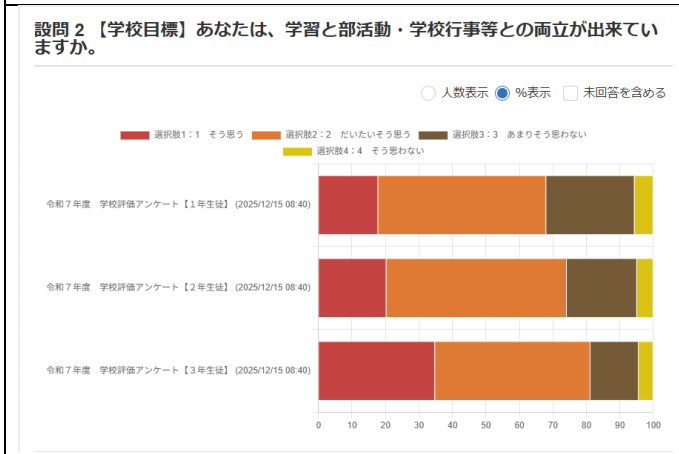
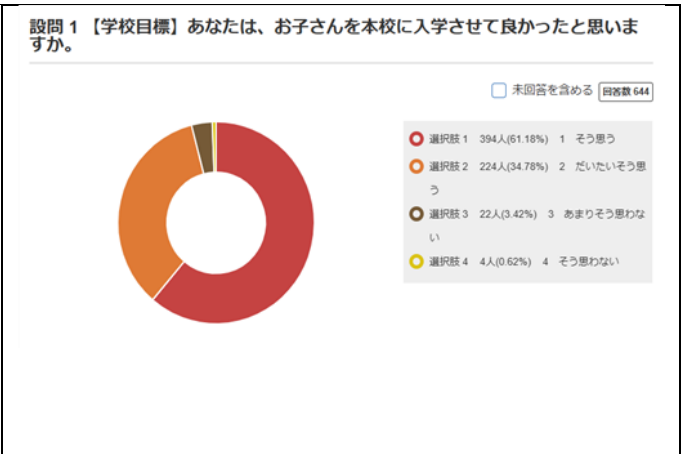
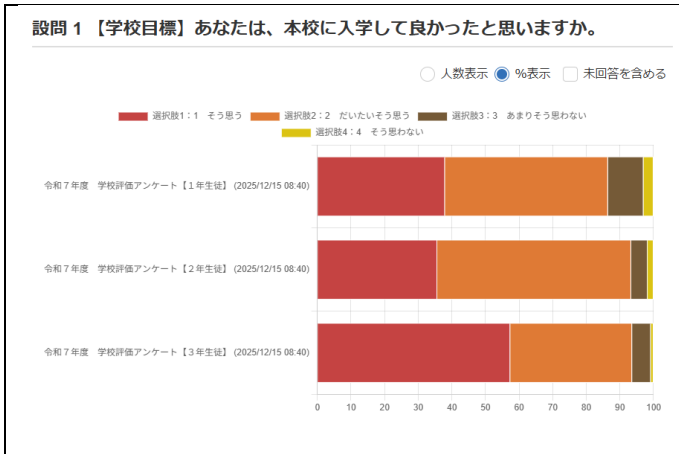
※今年度は町田・多摩・八王子の中学校及び近隣住人を対象に実施

- (3) アンケートの評価項目
  - ① 学校目標 入学満足度、学校生活の充実度、
  - ② 学習指導 主体的・意欲的な取組、個別最適な学び、協働的な学び、ICTを活用した教育、評価規準の明示
  - ③ 進路指導 第一志望の支援、進路情報の提供
  - ④ 生活指導 いじめ防止に対する組織的な取組、体罰・暴言のない指導、安全指導・防災教育の実施  
教育相談の環境整備
  - ⑤ 学校経営 働き方改革の取組(教員対象)

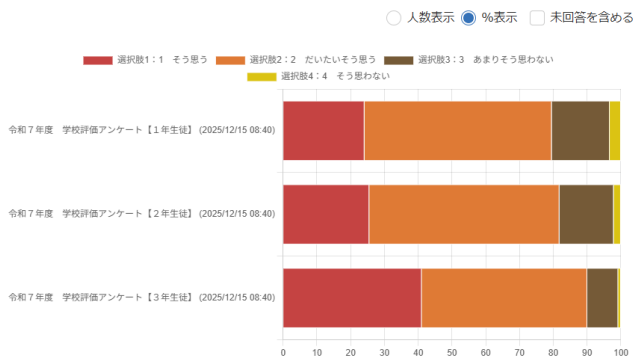
(4) アンケートの結果

問 1～問 11 生徒・教員は4段階で、保護者・来校者は⑤を含めた五つの選択肢から回答する。

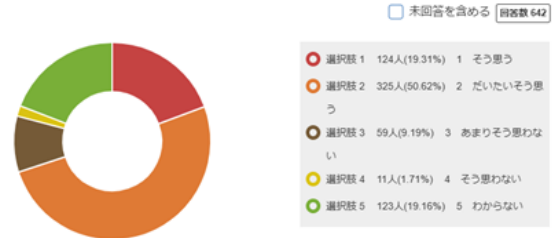
①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない



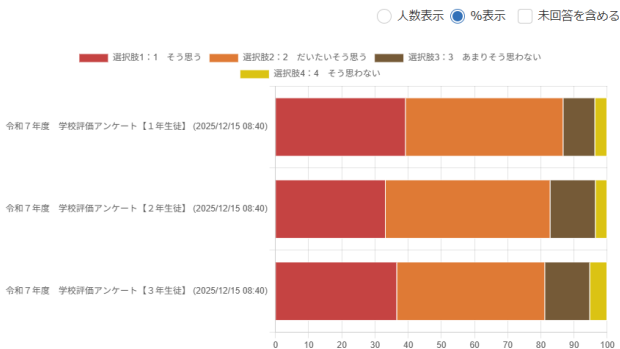
設問 5【学習指導】学校は、各教科・科目の成績評価の規準を明示していると思いますか。



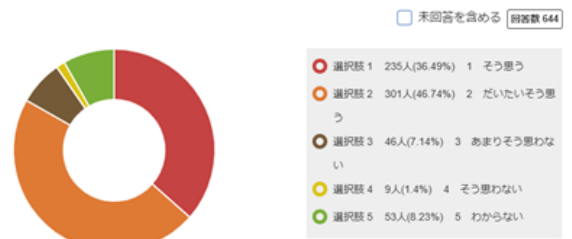
設問 5【学習指導】学校は、生徒に各教科・科目の成績評価の規準を示していると思いますか。



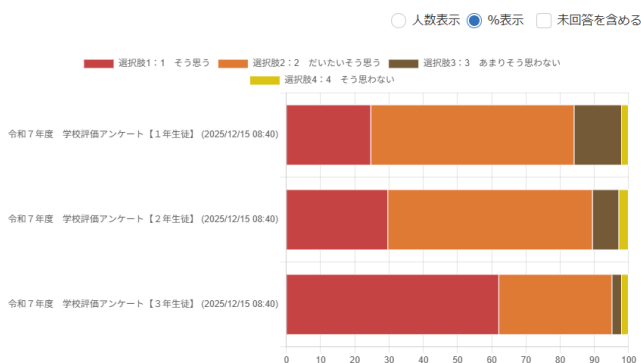
設問 6【オンラインの積極的活用・定着】学校は、講義や板書だけでなくiPadやClassi・Teams、電子黒板等のDX機器などを活用した授業を行っていますか、学習に役立っていますか。



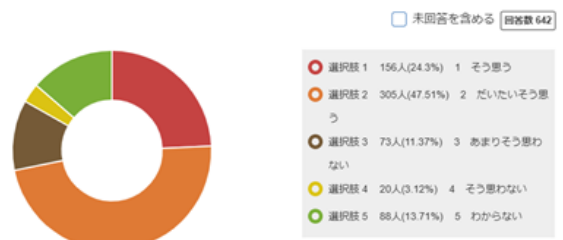
設問 6【オンラインの積極的活用・定着】学校は、iPadやClassi・TeamsなどICTを活用した教育に取り組んでいますが、生徒の学習に役立っていますか。



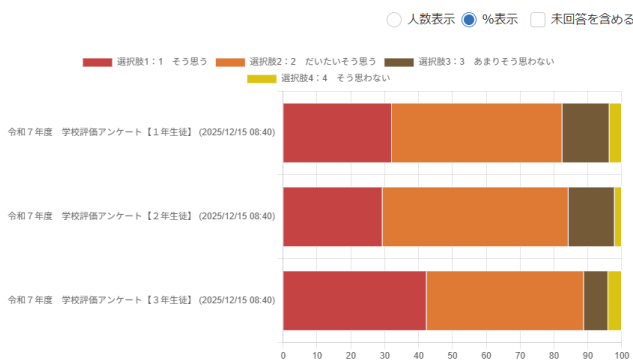
設問 7【進路指導】進路指導部や担任は、あなたの第一志望の実現を支援し、進路に関する情報を十分に提供してくれていますか。



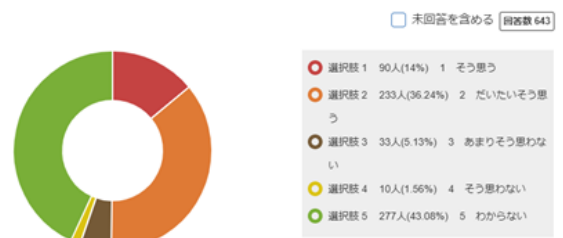
設問 7【進路指導】学校は、生徒の第一志望の実現を支援するよう、進路に関する情報を適切に提供し、組織的・計画的な進路指導を行っていると思いますか。



設問 8【生活指導】学校は、いじめの未然防止や早期発見が出来ていると思いますか。



設問 8【生活指導】学校は、いじめの未然防止や早期発見に組織的に取り組んでいると思いますか。





(5) 結果の考察 数値は肯定的な割合〔昨年度の割合〕

① 学校運営

- ・「入学満足度」は、生徒 91.1% [88.2%]、保護者 96.0% [97.0%]、教員 100% [94.5%] と増加しており高い。
- ・「学校生活の充実度」は、生徒 74.4% [72.7%]、保護者 79.6% [81.8%]、教員 78.9% [78.3%] と理想と現実との差による数値差と見受けられる。

② 学習指導

- ・「主体的・意欲的な取組」は、生徒 76.5% [73.0%]、保護者 86.6% [87.8%]、教員 86.8% [86.5%] と、生徒と保護者及び教員との解離の状況が見受けられ、生徒のほうが自身に厳しい評価と捉える。
- ・「個別最適な学び」は、生徒 74.6% [76.5%]、保護者は 71.3% [71.7%]、教員 81.6% [86.5%] と比較的高いが全体的に 80% を超える水準に持って行くようさらなる改革が必要である。
- ・「評価規準の明示」は、生徒 83.8% [81.9%]、教員 78.9% [89.2%] と比較的には水準よりも高めではあるがもっと見える化をすることが必要である。保護者は、69.9% [71.0%] と生徒との情報共有を少しは行っていると伺える。
- ・「ICT を活用した教育」は、生徒 83.6% [90.8%]、保護者 83.2% [82.9%]、教員 81.5% [94.6%]、とい

れも高い数値が出ている。

### ③ 進路指導

- ・「第一志望の支援、進路情報の提供」は、生徒 89.6% [87.8%]、教員 71.1% [89.2%]、保護者 71.8% [70.8%] と生徒は高水準である。保護者の数値の改善には、家庭内での情報共有や教員からの発信の充実によりさらに改善できると思われる。
- ・教員の「講習・補修・補講の開講」は、教員 78.9% [86.4%] と昨年度より下降した。学年主体での講習から学校全体で組織的な取組を行ったが、やはり未だに偏りがある。

### ④ 生活指導

- ・「いじめ防止に対する組織的な取組」は、生徒 85.1% [88.3%]、教員 86.8% [91.9%] と高い数値になってはいるが 100%近い数値に持って行く必要がある。また、保護者 50.2% [49.7%] は過半数に止まっているが、分からないという回答率が 43.0%と非常に高い。更なる情報発信を必要とする。
- ・「体罰・暴言のない指導」は、生徒 90.1% [92.4%]、教員 84.2% [83.8%]、保護者 72.1% [76.9%] と生徒は高い水準にはあるが、100%にすることが必要である。
- ・「安全指導・防災教育の適切実施」は、生徒 87.6% [88.0%] 及び教員 86.8% [86.5%]、保護者 69.2% [70.2%] と高い傾向はあるが、ヘルメット指導や自転車指導を充実させることが必要である。
- ・「教育相談の環境整備」は、生徒 85.0% [87.7%]、教員 89.5% [89.2%] は高い、保護者 64.8% [65.3%] はやや高い程度に止まっており、分からないという回答率 23.6%と高い。

### ⑤ 学校経営

- ・働き方改革の取組(教員対象)に関しては、「各種会議の時間短縮、校務の効率化、勤務時間の縮減」は教員 52.6% [56.7%] と昨年との比較では若干下降した。仕事の偏りが顕著にみられ、一部の者が疲弊していることも現状として見受けられるので、効率の良い業務分担を行うよう早急に改善を図り、来年度は 80%の水準まで持って行くように努力をする。

## 4 協議議員からの意見等

(1) 協議委員人数 8人

(2) 「学校がよくなった」と考える協議委員の回答(人数)

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
7	1					

(3) 協議委員からの意見の総括

本会では、有識者(大学関係者)、地域住民代表、同窓会代表、保護者代表、近隣中学校長、関係機関から貴重な意見をいただいた。まず、有識者からは、生徒の探究活動に対する疲弊感について指摘があった。進路指導部の回答は、探究委員を中心に負担感があることは事実であるが、本来探究活動は主体的に楽しんで取り組むものであり、その姿勢を大切にしてほしいとの認識が示された。また、今年度は探究活動における図書館活用が十分でなかった点が課題として挙げられた。あわせて、フリーアドレス制については、教材の多さから教材室を拠点とする教員もいるものの、基本的には活用されており、教員の所在が分かりにくいという課題に対しては座席管理システムを導入して対応していることが報告された。さらに、生徒の行動範囲を広げる取り組みとして、多様な講座への積極的参加を促し、学びの機会を増やしていることが説明された。他の有識者からは、本校が人を育てるという観点に立った生活指導を行えている点や、学校の広報活動が適切に機能している点について評価をいただいた。

地域住民代表からは、地域イベントへの協力に対する感謝の言葉が述べられ、学校と地域の連携の重要性が改めて確認された。

同窓会代表からは、防災訓練や探究活動の発表について、市と連携して進めることで、より実践的で社会につながる学びになるとの提案があった。

保護者代表からは、PTA 役員が増加している現状を踏まえ、学校側から要望があれば積極的に応えていきたいという協力的な姿勢が示された。

近隣中学校長からは、具体的な教育内容について複数の質問があり、授業規律についてはチャイム着席や休憩時間の使い方といった基本的な規律を重視していること、教育課程編成については特に英語の授業時数を中心に検討していく方針であることが説明された。また、「高校生として、町高生としての自覚」については、高校生として守るべきルールと、町高生としての伝統や地域からの期待を自覚させる指導を行っていること

が確認された。進路指導部による学年集会では、各学年での進路ガイダンスに加え、予備校講師を招いた講演などを通して進路意識の醸成を図っていることが共有された。

最後に、関係機関からは、探究活動がうまく進められていない生徒に対して、より丁寧なフォローが必要であるとの指摘があった。また、SNS 発信においては成功事例だけでなく、失敗や困難を乗り越える過程も発信することで学校の実像が伝わるとの助言があり、進学指導特別推進校としての取り組みが外部に十分浸透していない現状についても改善の必要性が示された。

これらの意見を踏まえ、今後は探究活動の質と支援体制の充実、地域・外部機関との連携強化、そして学校の教育的価値がより伝わる広報の在り方について、総合的に取り組んでいくことが求められる。